

後肢プロテクター及びその他馬具、練習馬場に関するルール改定に伴う解説

※本年4月の案内から赤字で変更点を加筆修正、取り消し線で削除しています。

FEIでは2022年1月1日、国内では同4月1日より後肢プロテクターのルールが改定され、施行されます。また、練習馬場における準備運動、一部馬具についても変更されている点があります。

この数年で後肢プロテクターについてはFEI障害規程（第257条2.4、2.5）によってたびたび改定されており、それに伴ってJEF障害規程（第257条2.4、2.5）も改定されています。選手・関係者にとってわかりづらい部分もあるかと思しますので、以下の通りご説明申し上げます。ただし、国内ではヤングホースのカテゴリーでの競技会が行われていない関係上、ヤングホースにおける規定は除外しています。このルールは競技のみならず練習馬場を含む競技会場内全てに適用されます（FEI/JEF 第257条2）。選手が競技場内でこのルールを遵守しない場合について、審判団は失権を適用しなければならないと定められています（FEI/JEF 第241条3.21）。**スチュワードマニュアルが改定（2022年9月12日発効）されたことを受け、競技出場前後にブーツチェックを実施する場合（ハインドブーツチェック）、出場前にブーツがルールに適合しているかをチェックすることはありません**締め具合・位置と併せてFEI/JEF 第257条2.4に規定されている条件に適合するかのチェックも行います。ただし、ブーツに限らず全ての馬具・服装は、選手・関係者がルールを把握の上各自の責任において使用していただくことが前提になります（FEI 一般規程第118条2/JEF 競技会規則第106条2）。ブーツの重量については第257条2.2ですので、事前チェックの対象外です。詳細は添付の「2. 競技前のスチュワード業務/ハインドブーツチェック（スチュワードマニュアル抜粋和訳）」をご参照ください。なお、ヤングホースで使用が許可されているブーツは、馬の年齢にかかわらず全てのカテゴリーで使用することができます（FEI/JEF 第257条2.5.1）。通常の公認競技会にヤングホースに該当する年齢の馬が出場する場合は、このヤングホースのルールは適用されません。また、FEIより、馬具の使用可否をリストにしたものが発表されています（**FEI Jumping Guidelines for Use of Saddlery, Equipment and Dress**）。併せてご参照ください。

<https://inside.fei.org/sites/default/files/FEI%20Jumping%20Guidelines%20for%20Use%20of%20Saddlery%2C%20Equipment%20and%20Dress.pdf>

★この改定については 2022年10月1日より施行します。

追加部分

1. 後肢プロテクターについて
2. スチュワードマニュアルにおけるハインドブーツチェックに関する改定点
3. スチュワードマニュアル抜粋和訳（ハインドブーツチェック部分）

★スチュワード・審判員他競技会役員として従事される方へ

本案内はあくまで解説です。必ず関連する各規程(特に本文 () 内の参照条項)を確認の上、把握しておくようお願いします。

1. 後肢プロテクターについて

★使用できない形態・機能

- ベルトが肢を一周するもの
- ベルトが一方向から折り返して反対方向へ向かって留まるもの（テコの原理を使うもの、折り返しタイプ）
- レバー式・ダイヤル式で締めるタイプ
- プロテクター内面に圧迫する素材の入っているもの（滑らかで均一であること）
- 最長部が **20cm** を超えるもの（ただし、交突予防のための柔らかい素材部分は除く）
- ベルト・留め具の規定に違反するもの ※次項参照
- 追加で取り付けられた、あるいは埋め込まれた部品**
- プロテクターを球節に当てた際に、球節の形にするために力を必要とするもの
⇒特にダブルシェルブーツ(内外共に固い保護パーツがあり、後ろから嵌め込むタイプのもの) はあらかじめ U 字型に成形されていなければならない。
- ベルトを装着しなければ球節を包み込むことができないもの



- ベルトの内側が擦過傷を引き起こすような素材（マジックテープなど）、または滑らかでないもの
- プロテクター内面が擦過傷を引き起こすような（ざらつきがある）素材





この LAMI-CELL 製ブーツは柔らかくスポンジ状であるため可

★ベルト・留め具の規定

認められている留め具は次の三種類のみ



マジックテープ



スタッドタイプ



フックタイプ

ベルトは伸縮性であること



ただし、保護用構成物が球節内側のみにある場合は伸縮性がなくてもよい
球節の後ろからはめ込むタイプで内外ともに硬いもの（ダブルシェル）、
包み込むタイプのものは伸縮性が必要

ベルトの幅は 2.5cm 以上 であること



ただし、マジックテープ一本のみの場合は 5 cm 以上 であること

水平のマジックテープの上から水平もしくは垂直に
マジックテープを被せる物は可



★使用 できない 装備・付属品

- プレッシャーソックス (運動時/前肢・後肢とも不可)

★使用 できる 装備・付属品

- フェットロックリング
- ヒールプロテクター(パスターンバンドと連結している物も可)
- プルアップソックス (プロテクションソックス)
- パスターンバンド (繋あて)
- プロテクターの下にベトラップもしくは軽量のバンデージを巻くこと



または類似のもの



プルアップソックス

- 競技 準備運動 厩舎内
引き馬でのグレージング 調馬索
後肢プロテクターの下に装着可



プレッシャーソックス

- 厩舎内 引き馬でのグレージング
- × 競技 準備運動 調馬索
全ての肢において不可

★その他注意事項

- 濡れている場合も含め、いかなる環境においてもプロテクター以外の装着物も含め一肢あたり 500g を超えてはならない。(第 257 条 2.2 参照)
- パスターンバンドは締めすぎてはならない。
- ベトラップ等を巻く際には可能な限りスチュワード立ち合いの元で行うこと。
- スチュワードはいかなる時にもベトラップ等を外して巻き直しを求める権限がある。(FEI/JEF 第 257 条 2.4 参照)
- スチュワードまたはオフィシャル獣医師はいかなる時にも前後肢のブーツ、その他全ての馬具のチェックを行う権限がある。(FEI 獣医規程第 1047 条 1 / JEF 獣医規程第 1026 条 1 参照)

2. 服装・馬具について

★服装について (第 256 条)

- 長靴は一色のみ上端、踵と／あるいは爪先に対比色を用いることができる。
- ジャケットの襟周りのみいかなる色の縁取りも認められる。
- 拍車は一足につき一つのみ。
- 携行できる鞭は一本のみ。



★その他馬装について (第 257 条 2.6)

- 騎乗、調馬索等運動中のサングラス等馬の目を覆う物の着用は不可 (グレージングエリア、厩舎区域は可)



3. 練習馬場における準備運動について

- 競技における高さが 140cm を超える場合には、練習馬場における障害は高さ 165cm 幅 180cm まで（現行は高さ 160cm）。 —第 201 条 4.5
- 出場する競技の直前あるいは進行中の競技に出場するための準備運動として、あらゆるジムナスティックに類するトレーニングは不可。 —第 201 条 5.1
 - ⇒コンビネーション、バウンスなど
- 出場する競技の直前あるいは進行中の競技に出場するための準備運動として、リードバー及びそれに類する地上横木の使用は不可 —第 201 条 5.2
 - ⇒上記下線はリードバー、6 m のオクサー用プレッシングポールなどを指す。グラウンドラインは可。



- 練習馬場の障害に大きな変更を加える場合には、スチュワードの許可が必要。 —第 201 条 5.3
 - ⇒標旗を入れ替えて飛越方向を変更する場合
 - ⇒コンビネーションを作る場合、など
 - ⇒障害のサイズ（高さ・幅）の変更は含まれない。

4. スチュワードマニュアルにおけるハインドブーツチェックに関する改定点

これまで習慣的に行われてきたことが明文化された他（危険な馬・神経質な馬の厩舎での実施等）、新たに下記の要領が追加された。それによってスチュワードより新たな要請を行う場合がある。

1. 使用の可否について、事前にチーフスチュワードに問い合わせをすることができる。
 - ① ただし、トレーニング前／競技出場前に実物を提示すること。
 - ② アシスタントスチュワードには問い合わせに対して返答をする権限はない。

2. ハインドブーツチェック時にルールに適合しているかのチェックをすることになった。
 - ① チェック対象は第 257 条 2.4 の項目であり、重量（第 257 条 2.2）は含まれない。
 - ② ブーツを交換する場合は、**外した物と新しくつける物の両方**をチェックする。
（肢巻／ペトラップを外す必要はない）
 - ③ ブーツをつけたら馬をまっすぐ前に歩かせる。



後退した場合は再度付け直しを求めることがある。

3. ハインドブーツチェックを実施していない競技であっても、ブーツを交換した場合は、外した物と新しくつける物の両方チェックする。肢巻・ペトラップ等を着用している場合は、出場前にスチュワードの前でつけたのでなければ、出場後にチェックする。

4. ハインドブーツを含み、規程に則った馬装で出場する最終的な責任は馬管理責任者が負う。（JEF 競技会規則第 106 条 2、4.4 / FEI 一般規程第 118 条 2、4.4）